

# 生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成

——第5学年「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」の実践を通して——

西条支部

## 1 研究の視点

- (1) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
- (2) 言語活動の充実

## 2 実践事例

- (1) 題材名 「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」
- (2) 目標

- 目的や品質を考えた物の選び方を理解するとともに、品物の購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- 購入しようとする物の品質や価格などの情報を整理し、計画的な使い方や、目的に合った物の選び方・買い方ができる。
- 物や金銭の計画的な使い方に関心を持ち、物や金銭を大切にし、適切に買い物をしようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童〔計39名（特別支援学級児童2名を含む）〕は、家庭科の学習に関心を持ち、大変意欲的に取り組むことができる。児童は、毎日様々な物やサービスを購入して生活している。本校周辺には、コンビニエンスストアや商店があり、本学級のほとんどの児童が、自分のお金で買い物をした経験がある。そのため、お菓子やジュース、ゲームの値段といった自分にとって身近な物の金銭に関する知識はある。また、金銭や物を大切にしなければいけないという意識はあり、物を購入する際には、予算内で済ませることや、大切にしなければならぬという考えを持っている。しかし、学級では落とし物が目立ったり、友達の持っているはやりの物をすぐにも買ってもらうたりしており、金銭や物を大切にするために、具体的にどうすればよいのかを考える機会が少ないため、行動に結びついていない児童が多い。
- 現代は、品物が豊かになり、購買意欲をかきたてる情報社会の中で、生活に必要なものを的確に選択したり、判断したりすることが難しくなっている。一方では、資源には限りがあり、環境を保全しながら暮らすことも重要である。本題材は、新学習指導要領において、C「消費生活・環境」に位置付けられている。内容は、「物や金銭の使い方と買い物」「環境に配慮した生活」の2項目で構成されており、消費生活について考えるスタートにあたる内容である。児童がこれまであまり意識することのなかった物や金銭の大切さへの関心を高めることのできる題材である。購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することを通し、物の選び方や買い方を考えることができることをねらいとしている。
- 本時は、登山に行ったときに、水筒を持参するのを忘れてしまい、飲み物を買に行く場面を想定する。選択する商品は、マークや量、値段などが違う5種類を用意する。まずは、個人の意思決定をする場を設定し、消費者としての素地を育てていきたい。次に、班で意見交流をし、値段や量だけでなく、品質・機能性・安全性、環境への配慮など様々な観点に気付くことができるようにし、その中から、自分ならどの観点到に注目し、商品を選択するかを考えさせる。  
この学習を通して、どのような買い物をすることが、物や金銭を大切にすることにつながるかを深く考え、日常生活での買い物に生かせるようにしたい。また、自分や家族の生活をよりよくするために金銭を大切に使うことが重要であることに気づき、計画を立てて適切に金銭を使うことができるようにする。

- (4) 指導と評価の計画（全6時間）

- 第一次 上手に選ぶために考えよう・・・1時間
- 第二次 買い物の仕方について考えよう・・・4時間（本時4／4）
- 第三次 上手に暮らそう・・・1時間

(次) 時間	ねらい	学習活動	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(一) 第1時	消費者の役割とは何かを考え、物を手に入れるためのいろいろな方法を見付けることができる。	生活を支えるお金の大切さや計画的な使い方について考える。		身近な物の選び方、買い方について、問題を見出し、課題を設定している。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。  家族の一員として、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
(二) 第2時	目的に合った選び方、買い方ができる。	買い物の中で契約が成立する場面を考える。	買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。	環境に配慮した生活について物の使い方など様々な解決方法を考え、工夫している。	
第3時		買い物をするとき、何をどのように選ぶか、買い方の手順を考える。			
第4時		消費者として、持続可能な生活について、買い物と環境の関わりを知る。	自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。		
第5時 本時	商品選択をすることで、自分の考えを適切に表現し、品質、大きさ、値段、環境への配慮などの情報を整理することができる。	買い物の場면을想定して、情報を集め、整理し、何をを選ぶかを決める。	身近な物の選び方、買い方を理解しているとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。	商品選択をすることで、品質、大きさ、値段、環境への配慮などの情報を整理し、自分の考えを適切に表現している。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、工夫し、実践しようとしている。
(三) 第6時	上手な物の選び方、使い方の学習を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫することができる。	自分らしい持続可能な生活の工夫を考えながら、おこづかいゲームを活用した買い物の模擬体験を行う。		身近な物の選び方、買い方について、さらに環境に配慮した生活について物の使い方などの実践を評価したり、改善したりしている。	

(5) 本時の指導 (5/6)

ア ねらい 商品選択をすることで、自分の考えを適切に表現し、品質、大きさ、値段、環境への配慮などの情報を整理することができる。

イ 準備物 お茶 (5種類ずつ)、ワークシート、電子黒板、タブレット端末

ウ 展開

学習活動	時間	学習形態	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (◎評価)
1 本時の学習のめあてを確認する。	5	一斉	○ 今日は、次の場面でどういう買い物をするかを考えてみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">友達と山登りにいきました。水筒を持ってくるのを忘れてしまいました。あわてて、近くのコンビニに行ったら、次の五つの商品があります。</div>	○ 忘れ物をした設定にし、買わざるを得ないことを伝える。
どんなことに気を付けて、買い物をしたらよいだらう。				
2 自分だったらどの商品を買うかを考える。 (1) 買う商品を選択する。 (2) その理由を書く。	8	個人	○ 5種類のお茶から、一つ選んでみましょう。選んだ番号と理由も書きましょう。 ① 1.5L ペットボトル 200 円 ② 500mL ペットボトル 100 円 ③ 500mL ペットボトル うちぬき水使用 西条市産 150 円 ④ 500mL 紙パック 賞味期限が近いので割引している 80 円 ⑤ 350mL アルミ缶 特保マーク付き 100 円	○ 選んだ理由をワークシートに記入することで、どのような視点で選んだか把握できるようにする。  ◎ 身近な物の選び方、買い方を理解しているとともに、購入するために必要な情報の収集・整理を適切にしている。 【知・技】 発言・記録
3 班で意見交流をする。 (1) 選んだ理由を発表する。 (2) 友達の意見を聞いて、意見交換をする。	10	班	○ 班の友達に自分の選んだ商品とその理由を発表しましょう。友達の選んだ商品とその理由を聞き、意見交換をしましょう。 ・①：一番量が多いから。 ・②：ペットボトルは再利用できるから。 ・③：地元の水を使っているから。 ・④：一番安いから。 ・⑤：特保のマークがついているから。	○ 班で発表し合うことによって、量、価格、環境への配慮など重視する情報で、選ぶ商品は異なることに気付くことができるようにする。 ○ 班で発表し合うことによって、自信を持って自分の意見を発表できるようにする。
4 学級全体で意見を交換し合う。	10	全体	○ 自分の選んだ商品を紹介しましょう。 ・④を選びました。理由は、値段が安いからです。 ・①を選びました。量が多いからです。 ○ 友達の意見でいいなと思った意見を発表しましょう。 ・〇〇さんが⑤を選んでいました。健康に気を付けているのがいいなと思いました。	○ タブレット端末を用いて、選んだ商品・理由を電子黒板に映し、学級全体で共有する。 ○ 特保については、補足説明し、表示されている保健目的に心配がある場合に摂取するものであることを伝える。

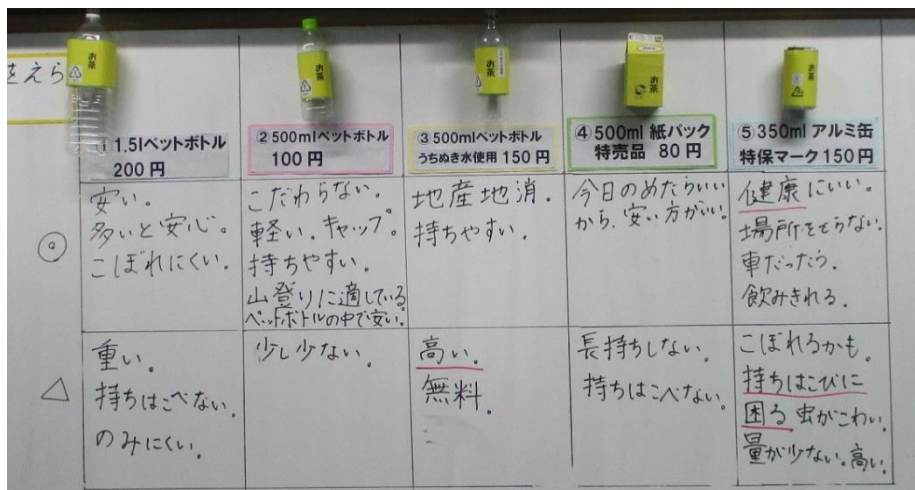
5 上手な買い物をするために、気を付けるポイントをまとめる。	7	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんが③を選んでいました。地産地消を意識しているのがいいなと思いました。</li> <li>○ 商品を買うときに、気を付けるポイントをまとめましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・賞味期限</li> <li>・大きさ、分量</li> <li>・値段</li> <li>・環境への影響</li> <li>・産地</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 商品選択をすることで、品質、大きさ、値段、環境への配慮などの情報を整理し、自分の考えを適切に表現している。【思・判・表】発言・記録</li> <li>○ 児童から出た意見を整理しながら、気を付けるポイントをまとめる。</li> </ul>
商品を選ぶときには、様々な観点に気を付けて選択する。				
6 学習を振り返る。	5	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日のきらりを書きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・値段や内容量だけでなく、環境についても考えたい。</li> <li>・いろいろな情報を大切にして、買い物したい。</li> <li>・選ぶポイントが分かったので、これからの買い物に生かしていきたい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きらり（振り返り）を書き、これからの実践への意欲付けをする。</li> </ul>

(6) 活動の実際

ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

(ア) 題材の工夫

選ぶ商品を工夫して、児童がより自分に合った商品は何かを考えられるようにした。例えば、持続可能な社会に向けて、リサイクルできるものが増えていることを確認するために、ペットボトルマークや紙パックマークが付いている商品を用意した。他にも、状況を考えて選ぶことができるように、ふたが閉まるペットボトルと閉まらない紙パック、缶を用意した。また、地産地消の観点を取り入れるために、西条市ならではのうちぬき水のお茶を用意したり、特保マークを付けたり、賞味期限を変えたりするなどの工夫をした。すると、子どもたちは、地産地消、健康、持ちやすさ、賞味期限の長さなど、様々な観点から考えることができた（写真1）。



〈写真1 それぞれの商品を選んだ理由〉

(イ) 体験的な活動の場の設定

「できる」「分かる」を実生活につなげるため、模擬体験の場を設定し、個人やグループで取り組ませるようにした。題材の始めでは、自分の買い物経験を振り返り、失敗した場面や買ってよかった物などを話し合い、実生活を振り返った。マークや表示の学習の際には、実際の商品を用いた学習を行った。見たことがないと思っていたマークが、自分が今使っているノートや、よく買うジュースに付いており、身近なところに予想以上にマークはたくさんあることが分かり、今の学習が生活の身近なものであることを実感させることができた。

題材の終末に、実際に買い物に行く活動を題材に位置付けることが難しかったため「おこづかいゲーム」を活用し、予算と期間を決めて、家計をやりくりする体験を取り入れた。ゲームの内容は、児童の様々な学校生活や家庭生活に対応できるように、「出店で食べ物を買う」「筆記用具を買う」など児童が出会うであろう買い物場面を想定し、実体験に近い活動の中で、おこづかい帳を付けさせた(写真2・3)。おこづかい帳を付けることで、金銭の支出入がより分かりやすくなり、「今は、月の真ん中だからたくさんお金を使ったら、月末足りなくなるな。」「夏祭りだから 500 円くらいは使ってもいいな。」など、自分で考えて金額設定をすることができるようになった。月末には、収入の範囲内で支出が収まった児童は、家計に対するやりくりに自信を持つことができた。また、おこづかいが足りなくなった児童は、思った以上に金銭を使っていることに気付くことができた。どちらの児童も、自分の生活と結び付け、家でもおこづかい帳を付けたいと意欲の高まりが見られた。



〈写真2 おこづかいゲームをしている様子〉

おこづかい帳 今月のめあて 計画的にお金を使おう!

8月

おこづかい帳をつける。計画的に使う習慣が身につく。むだづかいがなくなる。お金のやりくりをするには記録をつけておくことが大事だね。

月日	内容(何に買ったか)	もらったお金(収入)	使ったお金(支出)	残ったお金(残高)
1	おこづかい	1500円	0円	1500円
5	えんぴつ	0円	100円	1400円
8	ノート グリーンマーク	0円	100円	1300円
14	ラッキーデー	100円	0円	1400円
15	入金	500円	0円	1900円
15	土曜夜市	0円	100円	1800円
18	ラッキーデー	500円	0円	2300円
19	ジュース	0円	100円	2200円
22	ハム	0円	200円	2000円
26	サウナー	500円	0円	2500円
29	夏祭り	0円	100円	2400円
31	プレゼント	0円	500円	1900円
		円	円	円
		円	円	円
		円	円	円
		円	円	円
		円	円	円
		円	円	円
		円	円	円
	合計	3100円	1200円	1900円

注意 点

- ① 物を買うときは、よく考えてから買うこと
- ② 物は大切に使うこと(むだづかいのめど)
- ③ 友達とお金の貸し借りはしないこと
- ④ こまっている人のために郵金をしてみよう

〈写真3 おこづかい帳〉

イ 言語活動の充実

(ア) グループワークの充実

今回の授業では、全体発表の前に班活動を行った(写真4)。班で発表し、友達からアドバイスをもらうことで、全体発表のときに、もらったアドバイスも付け加えながらより深めた意見を発表することができた。また、全体で発表しにくい児童も、少人数の班で自分の意見をしっかり伝えることにより自信が付き、全体での発表につなげることができた。

1. 5Lの方が安いけど、確かに、重かったら途中でしんどくなるかもしれないね。



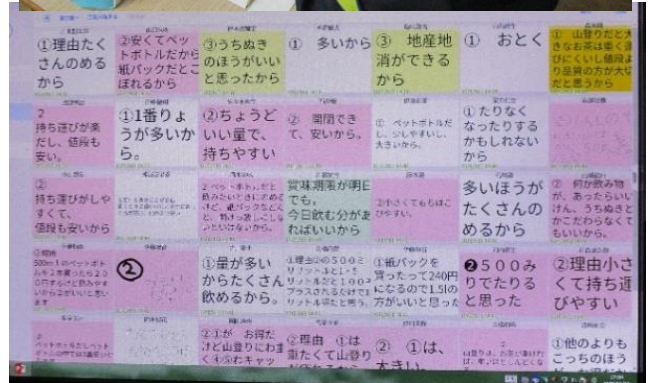
私は②を選びました。安いし、山登りのときは、重ければ重いほどしんどくなると思ったからです。

〈写真4 班活動の様子〉

#### (イ) ICT機器の活用

全体発表の時には、タブレット端末を活用し、一人一人が自分の意見を出せるようにした(写真5・6)。全員の意見が映し出されることで、多角的な意見に触れることができ、児童一人一人の商品に対する考え方が広がった。また、選んだ商品の番号によって色分けをすることで、同じ商品を選んでいても、その理由が違っていることに気付くことができ、それぞれの生活経験や金銭感覚の違いから出たたくさんの意見を共有する場となった。

全体で自分の意見を発表するときには、他の人が自分と同じ意見を書いていると自信がついて、発表しやすくなり、多様な意見を引き出すことができた。また、自分が考えていなかった意見に対して、「確かに、持ち運びも考えないといけないな。」「車で行くのだったら、紙パックの方が安くいいんだけどな。」など、状況や場面に応じた買い物について、より実生活と結び付けて、考えを深めることができた。また、気を付けるポイントをまとめる際に、最初に選んだ理由以外にもたくさん気を付けるポイントを見付けることができた。



〈写真6 電子黒板に意見が出そろった様子〉

### 3 成果と課題

本題材では、身近な題材や「おこづかいゲーム」などの実践的・体験的な活動を取り入れたことで、児童は、実生活との関わりを意識しながら金銭や物としっかりと向き合うことができた。終末の活動である、「おこづかいゲーム」を終えた後では、商品を選ぶ際には、計画的に金銭を使うこと、環境について配慮すること、地産地消、自分のそのときの状況にあった量を考えること、目的に合ったものを選択する必要があることなど様々な観点から考えて決定する児童も出てくるなど、実生活での実践へ、意欲が高まった(資料1)。

- お金のやりくりをする難しさが分かりました。
- 商品には、いろいろな種類があるから、たくさんほしくなってしまうけど、値段やそのときに必要な量、地産地消、環境のことなど、たくさんのことを考えて選びたいと思いました。
- 必要な物、自分が欲しいものを考えたり、セールのあるときを確認したりして、計画的に買い物をしていきたいです。いらぬ物は買わずに、いるものだけを買うようにして、無駄遣いを減らして、環境のことも考えていきたいです。
- 上手に買い物するポイントが分かったので、これからの買い物は困らないようになったと思います。

#### 〈資料1 本題材の学習を終えての児童の感想〉

また、班活動やICT機器の活用により、発表が活発化したり、発表内容に広がりや深まりが見られたりした。意見を視覚的に分類することで、商品選択の観点を明確に理解することもできた。

今後は、学びが定着していくように、児童の実生活でもおこづかい帳の活用を实践させたり、他題材で本題材の学習内容を繰り返し振り返らせたりして、持続可能な暮らしを実現するために身の回りの様々な商品を多角的に見る姿勢や、金銭や物を大切にする態度を継続して育てていきたい。